

編：加古 洋輔・増田 拓也・長谷川 葵・堀田 克明
編集協力：田渕 一・荒神 裕之

事例で学ぶ 医療機関で起きる法的トラブルへの対処法

書評者：松村 真司(松村医院院長)

2000年に亡き父が開設した診療所を継承し、四半世紀が経過した。世間の人々が抱く、気心の知れた地域の人々と、ゆったりとした診療が続く穏やかな日々……などという地域医療のイメージは、とうの昔に幻想となっている。実際には、次々と持ち込まれる多種多様な問題に対応するうちに、はっと気が付くと時が流れた、というのが実感である。世の中には本当にいろいろな人がいる。人がいるところに問題が発生する。そしてその問題は、時にトラブルへと発展する。いや、むしろ小さな診療所だからこそ、トラブルの当事者の一方になりやすい。もちろん、それらを何とか対処できてきたからこそ、今があるのであるが、やはりその間にはさまざまな方面の助けを借りたこともある。診療面での相談であれば助けを借りる先はいくつもあるが、法律面での相談というとなかなかそういうわけにもいかない。そして当然のことであるが、時とともに社会状況は変化を続ける。好むと好まざるとにかかわらず、以前は遭遇しなかつ

たような問題が次々と発生する。

本書は雑誌『病院』の連載「医療機関で起きる法的トラブルへの対処法」を書籍としてまとめられたものである。取り上げられている法的トラブルは、患者対応や労務関係のような「古典的」トラブルにとどまらず、昨今問題となっているインターネット上の誹謗中傷、サイバー攻撃などの情報管理の問題、人材紹介会社とのトラブルなど多岐に及んでいる。トランスジェンダーの職員への合理的配慮や、昨今話題の働き方改革に伴う問題など、現代的なトピックも多数取り上げられている。

これらの法的トラブルに関してまず具体的事例が提示され、Q & A 方式で法的観点からの対処法が解説されている。これらは全て架空の事例ということであるが、実にリアルで、明日にでも診療現場で遭遇しそうな事例である。また、実際に起きた場合の対処方法だけでなく、事前の予防策も記載されているため、非常に実践的かつ有用なものとなっている。法律的観点はもちろん大変参考になる

が、それに加えて「医療の現場から」というコラムが各トピックの末尾に記載されており、「法律はそうでも実際の現場では……」という実務的なコメントが全体のバランスを保っている。

当然のことだが、これまで四半世紀が無事だったからといって、明日は大丈夫という保証は全くない。全てのトラブルに完璧な対応をすることは無理だとしても、よくある問題について、基本的対処法を学ぶにこしたことはない。まして、本書では予防法まで提示してくれているのだ。法律は敵でも味方でもない。あくまで、法律は困ったときに私たちを助けてくれる相談先でありその拠り所である。そんな困ったときに、本書は真っ先に開いて相談をする先の一つになるだろう。そして、相談先は一つあるだけで安心なものである。

● B5・頁240 2024年09月
定価：4,400円
(本体4,000円＋税10%)
[ISBN978-4-260-05701-1]
医学書院刊